

漢法苞徳塾資料	No. 003
区分	情報
タイトル	アトピー性皮膚炎の治療～国立小児病院・飯倉洋治医長の試み
著者	八木素萌
作成日	1990.08.06 NHK 6:15 am 頃放映

◎「診療の折に夏休みが終わった頃に、明らかに症状が改善されていたり治癒していたり等の例に出会うことがあったので聞いてみると、海水浴に言ったあと痒みが無くなったとか治癒したなどと言うケースがあった。在来の常識として海水浴は刺激が強いのでアトピーには好ましく無いと禁止されて来たが、この様なケースは注目を要すると思って試験的に行なって見ると結果が良かったので、未だ判らない部分が多いが、奨められる方法であると考え。海水浴と同様な条件として、太陽と同じ波長の赤外線・紫外線を海水と同じ塩分の水を浴びさせて照射しても効果的であった。なぜ効くのかについて研究を進めて行くが～」という趣旨の飯倉洋治医長（アレルギー皮膚科）のコメントである。

◎放映映像は、患者とその父母による治療合宿が医師・看護婦とともに行なわれているシーン、人工的海水で体を侵してのち赤外線・紫外線ボックスに入ると言う実験のシーン、気が狂わんばかりの痒みに耐えられないため皮膚をポリポリとかきむしる患者の様子映像、合宿終了後と合宿開始時の患者の症状の変化を示すシーンおよび飯倉洋治医長の診察シーン、患者と父母の海水浴シーン、患者・父母の効果や病苦についての発言シーン、ダニやホコリが重要な原因とされているのでと涙ぐましいまでの母親の清掃の努力の様子を描き出しているシーン、症状増悪の場合には海水を良く洗い落していない場合であるというコメントのシーン、午前に1～1時間半、午後にも同程度が良いよさだと言う医師のコメントのシーン、アトピー皮膚炎患者が小児の約25%のも及んであるとのシーン、等などである。

◎アレルギー疾患の最近での激しい増加には多面的な要因が作用している。地球破壊の進展・化学肥料・化学農薬・大気汚染・食性の急激な変化・抗生物質や化学抗菌薬などの影響の激しい薬の投与・等などが指摘されているのに、これについては全く放映される事がなかったのは甚だしく残念な点である。

◎この放映はまたも漢法医学の発想の優越性を示している。飯倉洋治医長がこのような漢法的知識が有ったのであろうか？表虚虚熱血瘀に他ならない。驚くべき衛気の虚損の状態である、衛気は皮毛腠理を必要なだけ滋潤・温煦していないので、肌表に栄血が停滞して虚血状態になっているため激しい痒みが生じているのである。搔きこわして皮膚が損傷されると炎症と血瘀が入り交じっているのである。衛気が表陽の部に不足している状態は皮膚に十分に陽気を与える事・理血を行なう事が是非とも必要なのである。